

パキスタン・イスラム共和国

カラチ奮戦記



在カラチ日本国
総領事館付属日本人学校
2012. 4~2014. 3
岩見沢市立第一小学校
鈴木 一朗

1. パキスタン・イスラム共和国と最大都市カラチの概要

(1) 地理

面積は約 80 万 km² で日本 (38km²) の約 2 倍。東はインド、北東は中国、北西はアフガニスタン、西はイランと国境を接し、南はインド洋に面する。国土の中心部を流れるインダス川の流域に国民の 80% 以上が住む。日本からは、バンコク乗り換えの便で飛行時間はおよそ 12 時間である。



(2) 気候

パキスタン南部のカラチでは、北海道人にとって長袖が必要なのは 1 年のうち 1 か月である。2 月から 12 月までは日差しが強く、時には気温が 40 度を超える。砂漠気候で雨もほとんど降らないため、毎日が真夏の感覚で AC は必需品である。めったに降らない雨であるが、モンスーン時には排水設備が殆ど整備されていない為、道路等が冠水し、大渋滞となる。

(3) 人口

パキスタンの人口は約 1 億 8000 万人。2014 年現在世界第 6 位。出生率が高く国連の推計では 2050 年には約 3 億 4000 万人にまで増加し、中国・インド・米国に次ぐ世界第 4 位の人口大国になると予想されている。2014 年現在のカラチの人口は 1800 万人とも 2000 万人とも言われている。カラチに住む日本人会会員は 2013 年現在で 160 名ほどである。



(4) 歴史

19 世紀、英領インドとしてインドと同一の政府の下に置かれており、独立運動も本来は同一のものであった。しかし、独立運動の中でイスラム教徒とヒन्दゥー教徒との対立が深まり、イスラム教徒地域を「パキスタン」として独立させる構想が浮上し、最終的にはヒन्दゥー教徒地域がインド、イスラム教徒地域がパキスタンとして分離独立した。インド東部がイスラム多数派地域の東ベンガル州としてパキスタンに組み込まれ、1955 年に東パキスタンとなるが、遠く離れた両地域を宗教のみで統一しておくことが困難となり、やがて東パキスタンはバングラデシュとして分離独立する。

(5) 国旗

緑はイスラム教を象徴する色で、白はイスラム教徒以外の少数派の存在を示している。また中央には進歩を示す三日月と、光と知識を示す星があしらわれている。



(6) 言語

カラチではパンジャーブ語、シンディー語など様々な言語が話されているが、多くはウルドゥー語（国語）と英語（公用語）が使われている。公立学校ではウルドゥー語で、私立学校では英語で授業が行われている。看板はウルドゥー語と英語が併記されていて、ウルドゥー語がわからなくても困ることはない。中流以上とみられるパキスタン人は、英語で意思疎通ができ、上流家庭では普通の会話も英語である。



(7) 宗教

イスラム教 97%（国教）、ヒन्दゥー教 1.5%、キリスト教 1.3%。イスラム教徒であるムスリムは、アッラーが唯一の神であることと、その預言者となったムハンマド（モハメット）が真正なる神の使徒であることを固く信じる。ムスリムが必ずしなければならないことの1つに約1か月続く「断食」がある。日の出から日没まで水も口にしない。だから朝食はまだ暗いうちに、夕食は日が沈んでから遅い時間にとる。

また、お祈りは1日5回することになっている。時間が決まっています、まだ朝早い時間なのにお祈りの大音量の放送がかかって、赴任当初は慣れなかった。イスラム教は、祝日にも影響する。太陰暦を使用しており月の満ち欠けによって決まる祝日がいくつかある。主なものに、アシュラと呼ばれるシーア派のお祭り、イードと呼ばれるお祭りがある。アシュラは自分の体を鎖やムチで傷つけながら街を行進するお祭りで、前後の日は外出を控えるようアナウンスされる。イードは2種類あり第1イードは断食明けのお祭りである。第2イードは犠牲祭とも言われ、お祭りが近くなると、やぎや羊を飼う家庭を多く見ることができる。



2. カラチの電気、水事情

日本では当たり前にある電気と水が、パキスタンではとても貴重なものである。

(1) 頻発する停電

パキスタンでは停電が頻繁に起こる。日本では考えられないが、夏では毎日のように2,3時間、ひどい時で10時間以上停電が続く。停電になるとACも使えないため生きた心地がしなくなるばかりではなく、冷凍庫に保存してある貴重な日本食がダメになってしまう。電気がいかに重要なものであるか本当に実感することができる。

停電対策に使うのが発電機（ジェネレーター）である。停電になると、電源を切り替えて発電機を発動させる。パキスタンでは電圧も安定していないため、電気が急に暗くなったり、ファンが速くなったり遅くなったりもする。炊飯器やテレビなどは、故障防止のため安定器につないで使用する。



信号機もよく停電する。信号機自体あまりないが、交差点では大渋滞になってしまう。



安定器



よく停電する信号機

(2) 水不足

インダス文明で有名なインダス川やアラビア海があるにも関わらず、水不足は深刻である。

基本的に蛇口から水は出ない。地下のタンクに水をためて、それをポンプで 2 階のタンクにあげて使用する。水不足時にはタンカーを呼んで水を入れる。そのあと外にあるフィルターと、台所にあるフィルターを通してやっと食器を洗える程度の水になる。夏場にはタンカーもなかなか来なく、何度か水が使えなくなることがあった。



家の外の「フィルター」



台所の「フィルター」



タンカーから水を入れるガードマン



水を運んでくるタンカー

3. カラチの交通事情

治安の関係で、私たちは乗ることはできないが、以下のものが市民の足として活躍している。

(1) 「キンキラバス」

カラチ市民の 1 番の交通手段。

中はぎゅうぎゅう詰めで、2 階にも乗る。停留場では止まらず、走っているバスに乗り降りする。したがってドアはない。中には、窓ガラスがないバスもある。



(2) 「スズキ」

カラチでは軽トラックが乗り物になっている。スズキ自動車の車も多く走っており、現地の人は軽トラックのことを「スズキ」と呼んでいる。荷物だけでなく人も運ぶ。



(3)「リキシャー」
 オートバイを改造したもの。タクシーよりは安い、バスやトラックに比べると、かなり割高な乗り物。



(4)「オートバイ」

2人乗りは当たり前、5、6人や家族全員で乗っている人たちもたくさんいる。目の前を5人乗りのバイクが横切った。バイクは、車に代わる家族の重要な乗り物になっている。

(5)「自転車」「徒歩」

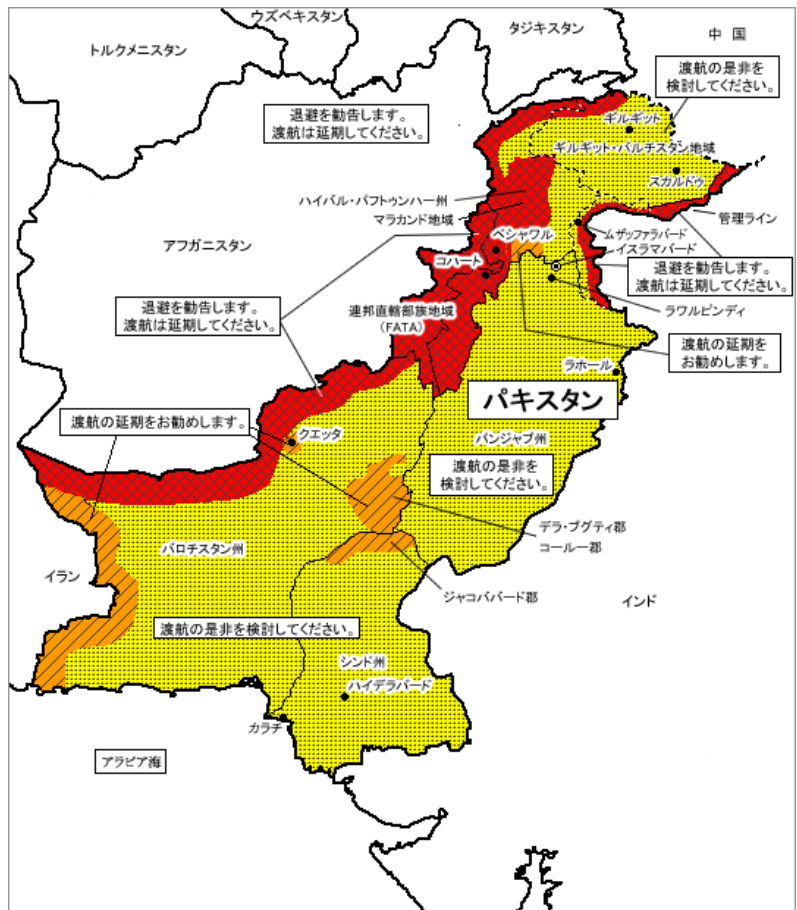
上記以外に道路には、自転車、徒歩の人があふれかえる。

4. カラチの治安

4段階に分かれている外務省の渡航情報は、パキスタン全土でレベル2以上の「渡航の是非を検討してください」であり国内旅行も制限されている。自由に市内を移動することはできない。テロやストライキ時には、外出が制限される。

市内には多数の警察官、レンジャーがいる。店やレストランの入り口にはガードマンがいて、セキュリティーチェックがある。多くの家庭が24時間体制の民間ガードマンを雇っている。

車で移動の際、助手席にガードマンを乗せる人も多い。ガンポイントと呼ばれる強盗対策や、頻発する道路封鎖など物々しい雰囲気は日本では決して味わうことはできない。



凡例:
 「退避を勧告します。渡航は延期してください。」
 「渡航の延期をお勧めします。」
 「渡航の是非を検討してください。」
 「十分注意してください。」

厳しいセキュリティー



銃持ち込み禁止



数名のガードマンがいる家



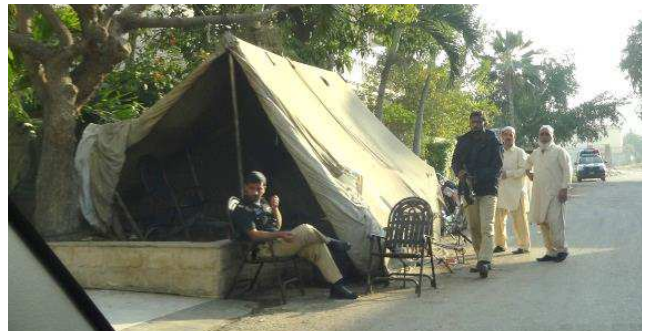
レンジャーがパトロール



我が家のガードマン



街にも多数の警察官



ガードマン用のテントがある家もある

5. 現地の教育事情

(1) 現在パキスタンにおける教育制度

① 学制

北インドと同じ5・3・2・2・大学教育。5年の前期初等教育を行う学校が小学校(Primary School)、次の3年間の後期初等教育を行う学校が中学校(Middle School)と呼ばれる。第9学年、第10学年を行う学校は中等学校(Secondary School)または高校(High School)、第11学年、第12学年を行う学校は後期中等学校(Higher Secondary School)やカレッジ(College)と呼ばれる。第10学年修了の試験は、企業での正規雇用に必要な最低学歴とみなされることが多い。第12学年修了後に大学教育に進学するためには、試験を好成績で突破しなければならない。



窓ふきをする子ども

② カリキュラム

第1学年からイスラム学(Islamiyah)が必修となっているが、ムスリムでない生徒は別教室で道徳を受ける。公立学校での教育言語は国語であるウルドゥー語が基本であるが、シンド州ではシンディー語による教育も行われている。英語学習は1年生から始まり、私立学校では英語を教育言語とすることをうたい文句にしていることが多い。



野菜を運ぶ子ども

イスラム学に加え国語の教科書も宗教色が強い。教科書は連邦教育省が検閲・認定した上で販売するため無償ではない。

③学校の種類

ア) 公立学校(Government School)

教員は公務員、男女別学が多い。

イ) 私立学校(Private School)

政府の資金援助を受けている学校ではカリキュラムでの自由度が下がる。植民地時代にまで歴史をさかのぼる名門私立や軍関連の民間団体が運営する学校、イスラム組織が運営する学校もある。農村部では、女性に対するパルダ（南アジアにおける女性の社会隔離の習慣）の規範が強い。

ウ) イスラムに基づく教育

宗教省認定の学校で「マドラサ」と呼ばれる宗教学校、簡単な文字教育やコーランを教えるモスク付設のモスク学校とも呼ばれる「マクタブ」、そのほか「未認定の第3のマドラサ」というものもある。

ひたすらコーランを暗唱する子どもたち



(2) 2011年の小学校への純就学率

男性 60%、女性 53%、合計で 56%に過ぎず、4 割を超す児童が適切な学年での教育を受けていない。ユネスコの調査では、世界で初等教育を受けられない子どもの数は 5700 万人で、パキスタンは世界で 2 番目に多い 540 万と報告されている。

(3) パキスタンの教育の質

NPO である南アジア教育開発フォーラムによる ASER 報告書によると、2010 年のパキスタン農村部における調査において、2 年生用の国語の教科書が読める 5 年生は 52%、2 年生の英語の教科書を読める 5 年生が 42%、3 年生用算数の教科書の計算ができる 5 年生が 34%だったとされている。公立小学校での安全な飲用水整備率は 43%、トイレ整備率は 55%。また教員の欠勤率も高く、教員が給料をもらいに月に 1 度だけ出勤する「幽霊学校」と言われる学校も多数存在する。

路上でとうもろこしを売る子どもたち



(4) 識字率

ユネスコの 2012 年調査では成人識字率は 55%でインド (63%) やバングラデシュ (57) %より低い。農村部や女性の識字率はさらに下がる。ラクダやロバに荷物や農作物をのせて運ぶ人たち、子どもたちを多く見かけた。



6. カラチ日本人学校

(1) 沿革

昭和 40 年世界で 4 番目の日本人学校として大使館付属日本人学校として開校する。平成 27 年には開校 50 周年を迎える。

(2) 安全対策

①学校、スクールバス

日中は 6 名のガードマン、夜間は 3 名のガードマンが門の前でにらみをきかせる。ガードマンは全員銃を携帯している。

校門のドアは鉄の扉で、監視カメラが 4 か所に設置されている。総領事館、職員室と無線連絡ができるスクールバスには銃を携帯した 2 名のガードマンが同乗し、さらに万が一に備え後ろをワゴン車が追走する。

学期はじめに、バスの訓練と不審者侵入や火災訓練等を行っている。総領事館の安全担当領事にも見学していただき、助言をいただく。校舎内には、二重の鉄の扉がある避難室があり、飲料水やビスケット、毛布等を常備している。

②寺子屋

多くの日本人が住んでいる地区と、カラチ日本人学校はバスにして 30 分ほどの距離がある。道路が封鎖されたり、集会や投石などで多くの人が集まり危険な状態が予測されたりするとき、学校を校長宅で開く場合があり、これを寺子屋という。2012 年度は 10 回ほど実施された。



校長宅で勉強



休み時間は庭でおにごっこ

(3) カラチタイム

日本と大きく異なる文化をもつパキスタンやカラチのよさを発見し、また日本との比較を通して国際理解を学ぶ総合的な学習の時間である。パキスタンの文化、歴史、産業、自然について興味関心を深め、10 月から取り組む個人研究発表につなげる。

治安の関係や、イスラム教の関係などで、見学場所や見学時間はかなり限られたものになる。学校単位や学級



Door to Door のスクールバス



学校のガードマンと帰国前最後の写真



マンゴー狩り体験

単体で見学調査に行く場合とも、学校の警備員が必ず同行する。治安の関係で延期や中止になる場合もある。

＜学校単位で行う活動＞ 毎年または隔年で行う

- ①現地語、ウルドゥー語の学習
- ②パックスズキ工場見学
- ③マングローブ植樹体験
- ④マンゴー狩り体験
- ⑤ウミガメ産卵見学
- ⑥サトウキビ作り
- ⑦モスク見学
- ⑧ラクダ体験

個人研究発表では、パキスタン独立の歴史や、サッカーボール、カレー、宝石、フルーツ、マングローブ、イスラム教、民族衣装など、興味関心や学年の発達段階を考えテーマを設定する。一人ひとりが体験調査を進め、12月の発表会でカラチ日本人会を学校に招待し発表する。



常にガードマンが警護



校庭での発表会

(4) 外国語活動

2名のパキスタン人講師に週2回英会話を習っている。習熟度に応じて2クラスに分かれ、歌やゲーム、発音や簡単な文法を習っていく。スピーチや英語劇にも取り組み、子どもたちは発表に向けて一生懸命暗唱の練習をする。パキスタンでは、英語は公用語として、買い物やスタッフとの会話において必須である。多くの子どもたちが英語検定に挑戦した。



英語劇

(5) 現地校との交流

治安や宗教などの関係でなかなか交流が難しい中、現地校への訪問、現地校の招待と、年に2回の交流をしている。25年度は、訪問では、パキスタンの子どもたちの遊びを経験したり、クリケットを体験した。招待では、2グループに分かれ、折り紙や鬼ごっこ、習字などで交流をした。



現地校との交流

(6) 朝の運動

校舎の周りを5分間で何周できたか、帰国するまで毎回記録していく。自由に家の外で遊べないカラチでは、運動不足になりがちであり、朝の運動が体力向上、維持につながっている。

体育館がないカラチ日本人学校では、4月から10月までの体育はプール授業である。10月からの涼しい時期（とはいっても暑い）、市内のグラウンドを借りてクリケットや、ボール運動、陸上競技等を行っている。



朝の涼しい時間に運動

(7) 写生会

写生会というと、学校から出かけて行って絵を描くことを想像するが、外に出かけてじっくり絵を描くことが不可能なカラチでは、ラクダや、バス、リキシャー、ロバなどを学校に呼んで写生会を行う。絵を描く前に、普段町では乗れないバスの乗車体験をしたり、ラクダに乗ったりすることができ子どもたちも楽しみにしている。



ラクダが学校に

(8) 七夕夏祭り

音楽の時間に学習してきたリコーダーや器楽演奏、合唱、体育の時間に学習した一輪車やなわとびを、日本人会の会員を招待し発表する。発表機会の少ない児童生徒にとって貴重な機会となっている。



また夜の部では、保護者の方の協力で、夜店やバザー、花火など、日本のお祭りを再現する。子どもたちにとって、カラチでは全く体験できない日本に触れる貴重な一日でとても楽しみにしている。

(9) PTA活動

娯楽がなく、日本食もほとんどないカラチで、少しでも子どもたちに楽しいイベントをということで、保護者の方の協力で、様々な行事が企画されている。

もちつき大会



たこあげ大会(後ろにガードマンの姿が)



日本食が楽しみなバザー



(10) カレーの日

毎週金曜日、多くの子どもたちと教員がパキスタンカレーを注文し、食文化に触れている。最初は辛くて食べられなかった子どもたちも、少しずつ慣れてきてパキスタンカレーを味わっている。多くのパキスタン人は毎日のように朝昼夜カレーを食べている。ナンやチャパティ(ナンのうすいもの)と一緒に食べる。

カラチタイムでカレーの研究をしたり、現地スタッフと一緒にカレーを作ったりして、現地の食生活、食文化を学んでいる。

豆カレーを食べる2年生



7. パキスタン、カラチで生活して

赴任までの不安は、計り知れないものがあった。1月から毎週のように打つ予防接種、大量の日本食の買い出し、大量の医薬品や蚊帳の準備、住宅や家のスタッフの問題、任意保険に入るべきか……。また、やっとの思いで見つけたパキスタンのガイドブックが、世界の国の中で唯一2007年度版のままで更新されていないことにさらに不安を覚えた。

家に住み着いているのヤモリ



このような多くの不安を抱えながらの赴任であったが、赴任当初は予想通りの困難に直面した。パキスタン仕様のすぐ修理が必要な住宅、大量のゴキブリ、家の中に住み着いているヤモリ。水が出なくなったり、発電機の調子が悪い時に限って停電が続いたり大変な思いをしたこともあった。豚肉のない食生活と食べ物の衛生の問題。不安が多い医療施設。それに加えて、北海道人にはつらい暑さ、全く異なる宗教の問題。そして治安。

人とバイクで大渋滞



幸い私たち家族に危険はなかったが、ガードマンは我が家に来る途中に暴漢に襲われ大けがをしたし、ドライバーは帰宅途中にバイクや携帯を強盗に持っていかれたこともあった。

原始的な秤



街中を普通に走っている馬やロバ、門の外につながれているヤギ、冷蔵施設のない肉屋、炎天下に並べられている卵、店で使われている天秤のような秤、たき火で夜の寒さを凌ぐガードマンなど、カラチの街並みや生活している人の様子を見ていると、まるでドラマの中のような「タイムスリップ」したような気分になった。ゆっくりと流れる時間の中で、日本では味わえない、日本では考えられないような非現実的な世界を体験することができた。



七輪を暖房にするガードマン

このような過酷な環境でも私たち家族5人が生活できたのは、カラチ日本人学校の職員、学校スタッフ、家庭スタッフ、現地のパキスタン人、日本人会の人々のおかげです。特に家庭スタッフがいなければ成り立たない生活でした。また在外派遣が決まるまでも、決まってからも多くの方々にお世話になりました。

二度と経験することはできないであろう、この二年間で得た数多くの貴重な経験を、これからの教員生活に生かしていきたいと思います。



我が家を支えてくれたスタッフたち